

(別紙2-1)

令和5年10月27日

二本松市議会議長 様

会派名 三木 剛

代表者名 三木 剛



視察・研修報告書

当会派において、下記により視察（研修）を（に）実施（参加）しましたので報告いたします。

記

1 期 間 令和5年8月 8日（火）～ 9月30日（土）

2 参加者 ① 三木 剛 ② _____

③ _____ ④ _____

⑤ _____ ⑥ _____

3 視察（開催）地及び視察（研修）内容

別紙2-2のとおり



(別紙 2 - 2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 三木 剛
氏 名 三木 剛

○ 月 日 令和 5 年 8 月 8 日 (~ 日)

○ 場 所 三木剛自宅

○ 内 容 未来国会に向けての計画作成

○ 視察・研修の感想

現代社会状況の課題について大学生と共に取り上げながら日本という国をどの様に変えていくことが大切なのかを話し合った。また、話し合いながら大学生が思い描く日本の姿について体外に意見交換を行った。大学生からは、給食無償化物価高騰、教育格差の問題について課題があるのではないかという話が出された特に教育格差によって未来に期待が持てないという話もあり、今後の計画の中で子どもたちの未来についてもっと政治的政策を強めていくことが大切だという話し合いとなり、未来国会に向けて教育格差をなくす為の政策計画を立てることとなった。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

話し合いを進める中で、若い世代の考えが反映されていないように感じた。もっと、若い世代の考えや思いをくみ取ることが大切だと感じた。市政に反映するためには、もっと、若い世代の思いを知る機会を設けることが大切だと感じた。

本市の政策に活かすためにも情報収集を様々な方法で集めていくことが大切だと思われる。今後の研修を通して若い世代の思いを感じ取りながら学びを深めて行きたい。

(別紙2-2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 三木 剛

氏 名 三木 剛

○ 月 日 令和5年 8月 10日 (～ 日)

○ 場 所 自宅 ZOOM 会議

○ 内 容 未来国会全国大会に向けての国家予算等の立案

○ 視察・研修の感想

インターン生がこれからの日本の政治に必要な内容についてプレゼンを行った。
3名のインターン生の発表後、過去と現代の課題との教育や社会状況の違いについて教育格差を中心に話し合いを行った。私が理解している内容やインターン生が学んだ内容を踏まえて共通理解を行い。国家予算についての立案を行った。インターン生は、現在の②ワンの政治に対して疑問を持ち、その疑問をどのように解決していくことが大切なのかを真剣に話していた。私自身、若い世代の子どもたちが日本のためにという思いを感じ、私自身も市政のためにどのように進んでいくことが大切なのかを改めて再確認することができた。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

市議会議員として、今おかれている市政の問題について若い世代から学ばせていただいた思いをどのように反映させていくかを今後の政治活動において意欲的に取り入れていきたいと感じた。特に、教育格差の現状をに対して真摯に向き合いながら、未来ある子どもたちのために議員活動に取り組んでいきたい。市政に反映するとなれば、先ずはじめに、教育格差の現状を正確に情報補収集ができるように当局に働きかけていきたい。

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 三木 剛

氏 名 三木 剛

○ 月 日 令和5年 8月 15日 (～ 日)

○ 場 所 自宅 ZOOM 会議 2時間

○ 内 容 未来国会全国大会に向けての計画検討会

○ 視察・研修の感想

前回に引き続き、未来国会全国大会に向けての計画検討を行った。教育格差についてどのような方法で、教育格差を無くしていくことが必要かについて話し合いを行った。また、教育格差の財源について、どのように財源を作り出すかについて、国の財源について、調べどのように引き出すかを検討した。インターン生は、防衛費を削減し子育ての資金に回すことで、教育格差を無くするための財源を作り出すことができるのではないかと発案した。インターン生の思いを聞き取りながら、今課題を解決するためには、軍事力より生活水準をあげることを優先にすることが必要だと感じた。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

今回の研修から税金の使い道についてどのような優先順位で進めて行くかについて、もう一度学び直すことが必要だと感じた。また、若い世代の思う日本の課題は、未来に希望が持てないというものなので、期待が持てる政治を進めて行くことが必要だと強く感じた。その思いをどのような形にしていくかについては、社会保障をどのように減らしていくかが大きな課題となる。市政で考えれば人口減少により税収が減少傾向となるため、その税収をあげるためにも企業誘致を積極的に進め、市内で働く環境を整えることが税収アップに繋がり、市民が潤うことができると考える。また、教育格差をなくす為の財源を確保できると考えられる。

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 三 木 剛

氏 名 三 木 剛

○ 月 日 令和5年 8月27日(～日)

○ 場 所 郡山中央公民館金透分室

○ 内 容 未来国会全国大会に向けての計画検討会
ハーフタイムイベント「未来国会交流タイム」

○ 視察・研修の感想

インターン生によるハーフタイムに参加し、8グループの政策発表を聞くことで若い世代の政治に対する思いを感じ取ることができた。特に子どもたちの未来について手厚い政策を進めて行くことが大切だという強い思いを感じ取られた。若い世代が生活の中で、教育格差を感じながら生きているといことも知ることができた。政治に子どもたちの未来が左右されているという意見も若い世代から発言があったことから、もっと若い世代、未来ある子どもたち、子どもたちを支える家族に寄り添った政策を進めることが大切だと感じた。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

今回のインターン生の発表を聞く機会により、若い世代が求めているものは、政治的なものとはかけ離れていることを強く感じた。市政に反映する内容として若い世代との対話の時間を確保する必要がある。市政に興味を持ってもらえる機会を多くつくり実現していくことが必要だと感じた。対話を大事にする機会を確保するための方法を考え、実践することで、本市の市政の在り方が見えてくると思われる。

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 三 木 剛

氏 名 三 木 剛

○ 月 日 令和5年 9月6日 (～ 日)

○ 場 所 自宅 ZOOM 会議 4時間 13時～17時

○ 内 容 未来国会全国大会に向けての検討会

「未来カフェ」パワーポイント作成

○ 視察・研修の感想

未来国会全国大会に向けてのプレゼンの方法について、パワーポイントの手直しを行った。政策を伝える手段として視覚的情報を活用することはとても有効だと感じた。グラフを持ちより何を伝えたいかが可視化されることで、物事の流れや進む方向性が明確になる。私自身、パワーポイントを使ったプレゼンの経験があるが、全体で共有しながら伝え方について吟味したことはとても良い経験となった。また、オンラインによつての会議の利便性も実感でき有効な研修となった。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

現代社会において、オンラインによる会議や後援会が支流になっていることから、市民に対してのオンラインによる情報発信や交流を進めて行くことが重要だと思われる。本市においても、各地域に出向いての市政報告会も必要ではあるが、現代社会の流れでもある機器を使つての報告会も今後進めて行きたい。

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 三 木 剛
氏 名 三 木 剛

○ 月 日 令和5年 9月9日 (～10日)

○ 場 所 自宅 ZOOM 会議

○ 内 容 未来国会全国大会予選発表大会

9月9日午前の部10時～12時10分 午後の部13時～15時
9月10日午後13時～15時30分

○ 視察・研修の感想

未来国会全国大会予選発表大会の発表を拝見し、インターン生の各チームの発表には、日本の未来をどのようにしたいのかが盛り込まれ、興味関心がわく内容だった。特に、税金をどのように活用することで、今を生きる若者が未来に期待を持てるのかについて知る機会となった。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

市政に反映する内容として、若い世代に二本松市の未来を描く場を募集することを行うことができるのではないかとと思われる。子どもたちに市の未来について募集し、プレゼン大会を開催する。最優秀賞については次年度の政策に取り入れていくことにより、市政は市民の声を取り入れたものであるという実感していただく機会をつくっていくことが市政に対して、興味関心がわくのだと思われる。

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 三 木 剛

氏 名 三 木 剛

○ 月 日 令和5年 9月28日 (～ 日)

○ 場 所 自宅 ZOOM 1時間

○ 内 容 未来国会全国大会地方大会の反省と課題報告

○ 視察・研修の感想

2か月間の研修を進めながら、今を生きる様々な年齢層の思いの内、若い世代の思いを聞く機会が持てたことは、この研修が有意義なものとなった。未来を支えていくのは、日本国民の義務といていいと私は思っている。その中でも、これから日本社会を背負う若者世代をサポートできる社会をつくっていくことがとても重要だと感じた。この経験を市政に反映できるように私自身も学びを深め、多くの市民のために働いていきたい。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

市政の発展のためには、様々な世代の情報を収集する必要があると感じたため今後の市政が目指すものは、市民の声をくみ取り形にしていけることが必要だと思われる。情報の収集は、特定の方だけではなく多角的に物事を見ていくためには様々な分野に対して情報を収集し、その情報が妥当性があるのかを吟味し、本市の総合計画に取り入れていくことがよいと感じた。

市民の未来のためにも情報を収集していく活動を推進できるように進めて行きたいと感じた。